

《AEFA/2008年度建設校》

国名	建設校	民族	児童数
ベトナム	ダックロオン小学校	セダン族	200名
ベトナム	ダクサオ小学校	セダン族	100名
ベトナム	マンリー小学校	セダン族	100名
ベトナム	ダックロガ小学校	セダン族	469名
ベトナム	ダクナー小学校	セダン族	87名
ベトナム	ヴァンスオイ小学校	セダン族	75名
ベトナム	ゴックトゥ小学校	セダン族	129名
ベトナム	グエンユー小学校	ムオン族	135名
ベトナム	タンホアA小学校	クメール族、キン族	145名
ラオス	ナトゥール小学校	スワイ族	54名
ラオス	ノントウム小学校	ラーウエン族、スワイ族	140名
ラオス	ノンチュア小学校	ラーウエン族	219名
ラオス	サボン小学校(フオンナム分校)	タオイ族	38名
タイ	ファイコン小学校	カレン族	325名

※他にベトナム1校、候補地最終調整中

08年度建設支援、15校に決定!

ベトナム中部高原に海外NGO初の許認

AEFAは設立3年で38校支援してきましたが、4年目の08年度の建設支援校はベトナム、ラオス、タイにおいて15校と決まりました。

08年度はベトナム中部高原で10校建てます。中部高原はベトナムでもっとも後進地でこれまで海外のNGOには建設が認められていないエリアでしたが、AEFAが世界で初めての許認を得て、これまで当エリアに6校を建設してきました。校舎建設だけでなく学校運営・国際交流を三位一体で行う支援姿勢が認められたのではないかと意を強くしています。

《3階建理念》を支える「現場主義」

折角建設しても貧困や村人の教育への意識などから数年後には荒廃してしまうことのないよう、AEFAでは候補地のニーズと意欲を十分に確かめるため、村の代表者とじっくり話し合っ建設地を決めています。

また、立地によっては寄宿舎も必要であり、食事支援のためには、学校菜園、鶏小屋、山羊小屋、養魚池、マッシュルーム栽培などを提案、援助し、井戸掘りや水道を引く場合もあります。現地でのニーズと生活環境をしっかりと



ベトナム中部高原スナップ

ご支援、ありがとうございます

◆「議員の会」様

「アジアの子供たちに学校をつくる議員の会」様から、タイ・ファイコン小学校建設のご支援をいただきました。ありがとうございます。

「議員の会」はカンボジア、ラオス、ミャンマーで8校を建設され、今回が9校目となります。

3月19-20日、「議員の会」代表の遠藤利明議員のご子女遠藤友香理さん、遠藤寛明さんが建設地を視察されました(関連記事10P)

◆銀河ネットワークグループ様

ベトナム・タンホアA小学校建設のご支援をいただきました。ありがとうございます。

3教室、教員室、トイレが作られます。また、学校が村の中心的な役割があることから、住民が集う「銀河ホール(仮称)」も建設されます。

9月からの新学期に向けて8月までの完成を目指しています。

《東京都教育庁より交流5校推薦フレンドシップ交流にご参加を》

建設決定のあとは、「求む! 交流校」です。07年度に4校推薦いただいた東京都教育庁より今年度は5校の推薦をいただきました。厳しく貧しい環境のなかでも新しい学校に眼を輝かせるアジアの子ども達とのふれあいは、日本の子ども達に必ずや何らかの(気づき)を与えてくれます(フォーラム記事参照)。お気軽にお問い合わせください。一緒に、アジアの元気をもらいませんか。スタッフ一同、お待ちしております。



上:ベトナム旧校舎
下:ラオス旧校舎



AEFAの3階建理念

1階 学校建設
2階 住民参加
3階 国際交流

ひとこと 実社会とのつながりを大切に

AEFA事業も4年目に入りました。「3階建理念」を実践する難しさに、時には挫折しそうになりながらも、今日を迎えることが出来たのは、支援者の皆様のお陰です。

NGO活動と言っものは、実社会と経済社会から遊離したものであつてはなりません。AEFAは実社会の骨組みの中に存在しているという自覚と、その基盤作りにも一部参加しているのだという自覚を持って、活動すべきでしょう。

真の試練が待っています。それは広く一般企業に支援を求め挑戦です。CSR活動の対象にして頂くためには、「理念の普遍性」と「具体的成果と直接的効果」が必要です。一般企業から支援を得ることが出来て初めて1人前になれるのです。その日を目指して新しい挑戦が始まります。

(理事長 谷川 洋)

《現場主義》に立つAEFAの活動は、学校建設にとどまらず、村人との学校運営協議、工事の進捗管理、フレンドシップ交流の参加依頼や交流サポート、開校式、開校後の状況

視察など多岐にわたりハードですが、『3階建理念』に理解と共鳴いただく多くの先生方、支援者、ボランティアの方々に支えられ、07年度は充実した1年となりました。

2007年度 AEFA Photoカレンダー

'08.1

建設作業のお手伝い/ソフト・インフラ支援



長野篠ノ井LC様は大日方会長自らペンキ塗りの作業を村人と一緒に。また、運動着、算数セットを持参、子ども達にプレゼント（関連記事P6）。
一方、校舎建設だけでなく、教科書などソフト支援や井戸掘りなどのインフラ支援が始まる（関連記事P7）。

'07.10

AEFAフォーラム/各校で発表続く



「第2回AEFAフォーラム」を開催。交流校の先生方はじめ参加40人が活発に意見交換。終了後懇親会。
各学校で日ごろの活動成果を、文化祭、学習発表会、朝礼などで全校に発表（写真は立会小発表会）。

'07.7

年度初の着工式/出前授業も頻繁に



最初の着工式をベトナム中部高原の小学校で挙げる。
福井県、岡山県の各学校でAEFAスタッフによる出前授業を行う。写真は岡山県玉島南小（07年の出前授業は年間9回実施）。

'07.4

ベトナムから先生来日



岩手県星山小学校に、フレンドシップ校のフーカンB小学校のリン校長先生と教育省のフォー先生が、関係者によるカンパで招待され、交流授業でベトナムを紹介。校舎新築落成式にも参加。なお、星山小は佐川専務理事設計の新校舎が文科省優良施設に選定（関連記事P11）。

'08.2

開校式続く/08年度建設地視察/鐘など贈呈



ベトナム・フートユエ小学校（写真左）、ティン・トゥオン小学校の開校式が行われる。
ベトナムの中部高原を中心に2008年度建設校を視察。各学校のボランティア活動で集められた募金・鐘等がAEFAに託される（写真右：杜松小）。

'07.11

ダブル受賞/ボランティア活動盛ん



AEFAの活動が外務省主催『第4回開発教育/国際理解教育コンクール』教材部門で入選、『CANPAN第2回ブログ大賞』で国際賞を受賞。
各学校で、銀杏を売ったり、古着を集めたり（平草小、長畝小、村岡小）、空き缶を集める活動が活発に展開される。

'07.8

全海研発表/アイセック、ベトナムで現地授業



第34回全国海外子女教育・国際理解教育研究協議大会において、AEFA交流実践事例を発表。
大学生ボランティア団体「アイセックー橋大学委員会」がベトナムのティンタン小学校を訪問し、現地で子どもたちへのインタビュー、日本の紹介授業を行う。

'07.5

ラオスの建設サイトを視察



ビエンチャン、サラワン県のラオガム地区、タオイ地区の2007年の建設サイトとこれまで建設した学校を視察。日本の学校との交流のフォローも行う。
NPO法人認定
5月28日付で東京都より「特定非営利活動法人」認証。

'08.3

現地スタディーツアー/理事長講演



静岡英和女学院高校が3回目のボランティアツアーをタイのファイヤー小学校・ポカロン小学校で実施。
谷川理事長が「毎日メトロポリタンアカデミー」の講師に招聘され講演（関連記事11P）。

'07.12

開校式続く/校長先生がベトナム訪問



ラオスのカムサムバド小学校、ベトナムのティン・ジャン小学校（写真）が完成し、開校式が行われる。
岡山県鶴山小学校の神田校長先生がベトナムのホンティエン小学校を訪問。交流を深められる。

'07.9

長野篠ノ井LC様ラオス視察/学校建設着々



長野篠ノ井ライオンズクラブ様が支援先を現地視察、建設校はラオスのトンコー小学校と決定。
支援各地で学校建設が進捗（写真はベトナム・ニヤックレオ小）。

'07.6

年度初の開校式/海外からの交流作品



2006年建設校、雲南省シャングリラ県の共卓小学校、阿央谷小学校の開校式が行われた。
海外からの交流作品が続々と到着。



「第2回AEFAフォーラム」を「フレンドシップ交流で子ども達に伝えるか」をメインテーマに、フレンドシップ校の先生方、支援者、ボランティア団体の方々40名のご出席をいただき、平成19年10月27日、開催しました。

AEFAの事業報告に引き続き、第1部パネルディスカッションでは、「フレンドシップ交流で子ども達に何を伝えるか」をテーマに、交流校の校長先生方から交流の取り組み内容と子ども達の反応、今後への期待などについて具体的な事例が報告されました。

第2部グループディスカッションでは出席者全員が6つのグループに分かれ、「日本の子ども達にどう伝え、またアジアの子ども達に何を伝えるか」をテーマに意見交換し、その要旨がグループ毎に発表されました。

AEFAの呼びかけに共鳴されご出席いただいた皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

第2回AEFAフォーラム『フレンドシップ交流で子ども達に伝えるもの』

2007.10.27

プログラム

①主催者挨拶
②AEFA学校建設事業の事業報告
③フレンドシップ交流校の全体報告

第1部

①フレンドシップ交流事例発表
～遠田清志先生(相模原市立藤野南小学校)

②パネルディスカッション
◆テーマ◆
フレンドシップ交流で子ども達に伝えるもの
(パネラー)
木村廣校長(横浜市立保土ヶ谷中学校)
瀬野尾千恵校長(横浜市立二俣川小学校)
滝澤登校長(相模原市立藤野南小学校)
西岡郁雄校長(町田市立小山田小学校)
山岸一良校長(品川区立杜松小学校)

第2部

①グループディスカッション(出席者全員)
◆テーマ◆
受信: アジアのフレンドシップ校からの作品を、日本の子ども達にどう伝えますか?
発信: 自分達の何をフレンドシップ校に伝えますか?

②総括
③閉会挨拶(懇親会)

●パネルディスカッション発言要旨



山岸 さんなん募金活動を25年間続けている。杜松小も小規模校になり、活動を続けていくのは大変になっているが、ラオスの子どもに寄付しようとして、子どもたちががんばっている。小学生同士同じ目線で、アジアの子どもたちにさんなん募金を通して何かできればと思っている。交流校のクアンシー小学校には、鐘を贈りたいとも考えている。注：08年4月に贈呈実施。



杜松小学校・山岸校長先生
地域の「小山田会」という団体の協力を得て、竹を切って、乾燥させ、窯に入れて竹炭を作って、販売し、タイのサムソップ小学校に寄付している。今後は、サムソップ小学校の子どもを2人招待したいと考えている。小山田小でも環境教育に力を入れてるので、サムソップ小学校とも「明日の地球を考えると」というテーマのもと、環境教育でつながりたいと思っている。



小山田小学校・西岡校長先生
以前勤務していた学校では、ベトナム難民の子どもがたくさんいて「外国人も一緒に学べる学校」として取り組んできたが、外国の子も、日本の子も「共に学んでいる」ことに気付いた。また、ドイツの日本人学校では、川の氾濫で困っている地域の学校を支援したことがきっかけとなり、顔が見える交流が始まった経験をした。国際交流や直接体験を通して、子どもに違いを知ってもらいたいと思っている。



タイの子どもたちの勉強に対する意欲はとても強く、私自身も勉強することの有り難さに気付いた。生活は、私たちの生活と全く違ったものだが、私たちはその生活をとても楽しむようになった。ボランティアに参加して、カレンの人々のやさしさ、心の美しさが一番心に沁みだ。村人の心を有り難く受取り、私たちもできることをしていきたいと思った。私の役割はタイの現状を伝えていくことだと思っている。



藤野南小学校・滝澤校長先生
国際交流の取り組みの中で、地域の方からAEFAを紹介され、遠田先生の指導もあって「顔の見える交流」が始まった。私の好きな言葉に「出会い、ふれあい、分かち合い」というのがあるが、藤野南小学校の子ども、ベトナムの子ども、遠田先生も、無理なく、お互い喜べる、いいものを分かち合える交流になったと思う。



保土ヶ谷中学校・木村校長先生
学校内で、外国人生徒に対するいじめがあり、人権教育と国際教育の必要性を強く感じた。以前、バンコクの日本人学校に勤務していたとき、チェンマイの山岳少数民族を訪ねた。その学校は何もないところだが、子どもたちは目を輝かせて勉強しており、その姿を見て衝撃を受け、私自身、何とかしないと、強くなりたい。交流校のベトナム・ティン・トゥオン小学校も、親の80%はハンセン病という学校なので、本校としても意味のある交流になると期待している。

●グループディスカッション発言要旨

●グループA

絵や写真を使ったシンプルな交流で、お互いの「違い」を伝え合う。
交流を通して、「貧しい国に生まれなくてよかった」というような一方的な視線を持たないよう、心のやさしさや家族愛や信頼関係など、日本で失われてしまったようなものをもらっていることに気づかせたい。その「気づき」を、子どもを通して親、地域の人へ伝えていきたい。
道徳教育で「いのち」をテーマとして日本の学校で取り組んでいるが、外国の子どもが「いのち」をどう考えているかを知りたい。
日本のフレンドシップ校同士、HPのリンクなどでつなげたい。

●グループB

「アジアで学校を作り、いきいきと学ぶ現地の子どもたちが増える。それは日本の子どもたちを救うことにつながる」
アジアの子どもたちがもっているキラキラした瞳は、親に感謝し、兄弟を大事にしている家族愛、人を大切にする道徳の心からである。これは日本の子どもに足りないもので、これが原因でいじめなどがおこっている。
現地から生活の様子、情報が届くが、それを体験した人が生きた言葉で日本の子どもに伝え、また日本の子どもが受けた思いを現地に伝えていきたい。そこから交流が始まる。
日本から日本文化や、身の回りのことを伝えていき、相手の国のことを考えていくと、環境、経済への問題意識にも発展していく。現地との交流はギフト&テイク、現地から得

●グループC

受信&発信
「どらえもん」の絵とお互いにどらえもんのストーリーを作って交換する。
「タイの絵」〜日本も四季がなくなっているなど、環境問題につなげる。
「ラオスの地図」〜お互いの住んでいる所と



参加者会員がA~Fの6つのグループに分かれ活発に意見交換。グループ毎に報告が行われました。

●グループディスカッション・テーマ
受信: アジアのフレンドシップ校からの作品を、日本の子ども達にどう伝えますか?
発信: 自分達の何をフレンドシップ校に伝えますか?



るものも大きい。この交流を通じて、日本の子どもたちに道徳心など大事なことを伝え続けることは、子どもたちがこれから世界に飛び立ち、多様な生き方のできる子どもになることへの助けになればいいと思う。

比べる。
「ベトナムの壁新聞」〜まず詩をとりあげ、それから写真をだす、詩の交換をする。これらの作品は社会、図工、国語の時間で教材としてとりあげることができる。
交流は、打ち上げ花火的ではなく、「心」を残し、地域に浸透するような動きをしていきたい。教師の「引き出し」の多さ&大きさ、情熱、人間力によって、子どもたちに伝えられるものが変わってくる。
人の行き来など直接的な交流でなくても、相手を思いやる想像力が大切。
寄付・募金など、一方的な「してあげる」交流ではなく、こちらもアジアから受け取っているものがあることを認識する。

●グループD

絵・作文など作品の交換で、できることから、無理なく長く続ける交流をしていきたい。
国際交流は、点でなく、線につながる交流が大事。
ラオスから届いた映像で、川の中で全裸で遊んでいるシーンがあった。思春期の子どもには見せられないので、注意が必要。
文化は違っても、同じ生活をしているという認識をしないとけない。
現地では「物が無い」現状を聞き、「アルミ缶集め」で募金をしたり、文房具を寄付したい。
日本の子どもが失っている「自然などに対する「畏敬の念」」を伝えることも大事でないか。
できることから取り組み、無理しないで、国際交流の意義、大切さを伝えることからは始めるといい広がりをするのではないかと思う。

●グループE

受信や発信
「タイの絵」〜環境破壊問題、環境教育
※日本の身近な場所、同じような所があるのでは?と考えさせる
※この絵だけでは見えないところ(住んでいる人たちの生活や、抱えている問題)を想像させ、ふくらませる
※日本からは、日本の子どもたちのありのままの姿を伝えたい

●グループF

交流におけるコミットが深いと難しいので、細く長期的な取り組みが大切。(クラブ活動など少人数の活動から始めて、広げてゆくと)
負担にならない交流〜学習に取り込むだけでなく、他のアプローチも考えたい。
交流の中心となる先生が必要である。
ただ交流作品を見せて紹介するだけでなく、先生から正しく、内容の深い補助説明が大切。
現地の学校が必要とするものに応じることも大切なのではないか。

●インフラ・ソフトウェア支援

◆(株)ランクス様

ラオス・ノンデュン小学校の井戸をご寄付いただきました。乾季でも水が豊かに湧き出し、年間通して子ども達が衛生的な水を使えるようになり、また学校菜園の水撒きや、村人達の憩いの場所ともなっています。



◆紺野真紀様 ラオス・クアンシー小学校の井戸掘りをご支援をいただきました。現在掘削中です。

◆(株)匠工房様 ラオス・ドンニヤイ小学校のプレイコートのご支援をいただきました。

◆(株)エアーエンターテイメント様 学校を建設しても教科書や教材がなかったり、家庭の経済的事情で通学できない現状から、教育環境を整え充実させるためのソフトの重要性に共鳴いただきました。ラオス・パチュドン小中学校に、教科書・給食用のお米・奨学金・学校飼育の家畜のえさ等のご支援をいただき、また、オリジナルホワイトバンドを作成して店舗で販売。お客様のご理解とご協力により即完売、売上金を寄付しました。



ホワイトバンド 米倉庫の前で



⑬(建設中) ベトナム
ハナ族
チュー・オレン小学校
5教室の新校舎。児童数423名。教室不足で、子ども達は人民委員会や幼稚園の施設で授業を受けていました。「少数民族の生活は貧しく苦しいが、子どもは無邪気で明るく、まっすぐ。教育により、子ども達には安定した職業に就いてほしい。村の生活レベルもあがってほしい」(ゲン校長先生談)
(福岡県越前市立王子保小学校)



⑭(建設中) ベトナム
ルガオ族
クルーン小学校
4教室の新校舎。児童数173名。教室が足りないため、子ども達は村の集会所を借りて2部制で授業を受けていました。旧校舎もそのまま使い、1~3年生の子ども全員が通えるようになります。僻村では、先生の生活も大変です。「妊娠中も、平日は学校近くに住む先生の家に下宿させてもらい、週末は家のある町に帰り、臨月まで働きました。」(ファン校長先生談)
(東京都江戸川区立平井第二小学校)



⑮(建設中) ベトナム
トドラ族、セタン族
ニャック・レオ小学校
4教室の新校舎。児童数151名。山と森に囲まれた村で、非常に貧しいながらも村人達は助け合って生活しています。6km先から通ってくる子どももいます。校長先生の人望はとて厚く、教育に熱心です。
(東京都中野区立向台小学校)



⑩08.04開校 ラオス
スワイ族
ドンニヤイ小学校
5教室+図書室兼教員室の新校舎が完成。児童数380名。地区の中心的な学校。学習環境が整ったことで、生徒がさらに増えることが予想されるので、旧校舎も移築して使用する予定です。村人も、木の切り出しや水運び、地ならしなど積極的に建設に協力しました。
(東京都足立区立千寿第八小学校)



⑪(建設中) ラオス
スワイ族
クアンシー小学校
3教室の新校舎。児童数75名。今まではお寺の一隅にある高床式の小屋で学んでいた1~3年生の子ども達が通います。幹線道路から外れた僻村ですが、ボランティアの先生が熱心に教えています。村人は教育に熱心で、水運びや基礎の埋め戻し等で建設協力するだけでなく、先生の給与もお金を出し合って負担しています。
(東京都品川区立杜松小学校)



⑫(建設中) ラオス
タオイ族
ブオンナム小学校
この地域には今まで学校がなかったため、一度も学校に通ったことのない子どもがたくさんいます。近隣10村から子ども達が通えるようになり、民族語しか話せない子ども達がラオス語を理解できるようになれば、職業にも就きやすくなり、貧困から脱出する機会になると歓迎されています。村人達は資材運搬に協力。めかるみにはまったトラックの荷物を運んだり、道路に土を盛ったり、朝5時から夜真暗になるまで手伝っています。



⑦08.02開校 ベトナム
エテ族・ジャライ族・ムオン族・ムノン族・フレ族・タイ族
ブオン・ヤクラ小学校
3教室の新校舎が完成。児童数74名。今まで学校がなかったため、村の集会所を教室代わりに2部制でしたが、1~4年生の子ども達全員が新しい学校に通えるようになりました。村人達も学校のために新しい土地を用意し、地ならしなどで熱心に協力しました。



⑧08.04開校 ラオス
ラーウェン族
ラオノン小学校
5教室の新校舎が完成。児童数100名。教室に入りきれず学校に通えなかったり、8km離れた他の村の学校へ通っていた子どもたちも学べるようになりました。村人たちは木材の切り出しや基礎の埋め戻しに尽力しました。
(東京都江東区立毛利小学校)



⑨08.04開校 ラオス
タオイ族、ラーウェン族
トンコー小学校
(長野県井ライオンズクラブ様支援校)
3教室の新校舎が完成。児童数76名。長野県井ライオンズクラブ様のご支援で、校庭にプレイコートも造成。雨季でも外で体操やアクティビティを行なうことができるようになりました。村人達は、木材集めや建設地の地ならしや清掃などで協力。学校建設を通して、村の結束力が強まりました。
(倉敷市立旭丘小学校/長野市立通明小学校)



④07.12開校 ベトナム
バビ族、バコ族
ホンティエン小学校本校
2教室の新校舎が完成。児童数150名。山奥からバンキエウ族が移住し50人もの児童が増えたため、従来の5教室では教室が不足。本校舎の横に新校舎を建設し、学習環境が整いました。
(岡山県津山市立鶴山小学校)



⑤08.01開校 ベトナム
エテ族
ティン・トゥオン小学校
5教室の新校舎が完成。児童数378名。ハンセン病コロニーの中にある学校で、同病の両親を持つ子どもが多く通っています。旧校舎8教室のうち4教室は老朽化して危険なため使えず、2部制授業を行い、期の終わりには出席率が下がるのが問題でしたが、新校舎で全学年用の教室が整いました。
(神奈川県横浜市立保土ヶ谷中学校)



⑥08.02開校 ベトナム
クメール族
フートウ小学校
(株アルファビート様支援校)
3教室の新校舎が完成。児童数120名。旧校舎は老朽化で閉鎖。幹線道路から少し入った静かで安全な土地に建設しました。「私たちの夢は新しい校舎で勉強することでした。いろいろな方のご支援のおかげで、夢が本当になりました。今、学校は新しい校舎の匂いがしています。本当にありがとうございました。」(開校式での児童代表のお礼の言葉)
(福岡県鯖江市立河和田小学校)



①07.11開校 ベトナム
エテ族、ラオ族、ムオン族
ブオン・ジャン・ラン小学校
4教室の新校舎が完成。児童数112名。老朽化した窓もなく暗い教室で、2部制で学んでいた子ども達の学習環境が整いました。
(神奈川県横浜市立千寿小学校)



②07.12開校 ラオス
ラオ族
カムサムバド小学校
5教室の新校舎が完成。児童数130名。戦争で障害を負った人々のために行政が開発した地区にある学校。教室不足のため学校に通えなかったり、他の村の学校に通っていた子ども達も、自分の村の学校で勉強できるようになりました。村人達も熱心に旧校舎の取り壊しを手伝い、使える資材は新校舎建設に用いられました。
(神奈川県横浜市立二俣川小学校)



③07.12開校 ベトナム
キン族
タイン・ジャン小学校
5教室の新校舎が完成。児童数784名。地区の中心的な学校。夜間には優秀な子の補習授業が行われ、先生達も大変熱心です。旧校舎9教室は殆んどが老朽化で閉鎖され、3部制で授業を受けていた子ども達が安心して学習できる環境が整いました。
(三重県津市立南が丘小学校)

前回ここを訪れたときの子供達は、その多くが少し離れたところから我々を眺めている、少しおびえた印象であったが、今回はだいぶ雰囲気も明るく、好奇心に満ちた希望を蓄えた普通の子供の感じを受けた。授業が始まれば水が砂にしみ込むように何でも吸収してくれそうである。



▲校舎建設を手伝う大日方会長

計4ヶ所を見学し、NGOと共に村人の意見を聞く。どの村も熱心に現状と学校の必要性を真剣に訴えた。中でも村民の協力体制に意気込みが強く感じられたトンコー村に我々の学校建設を決定した。2008年1月、当クラブより5名が校舎も完成に近づいたトンコー村に2度目の訪問を行った。今回は事前に会員に呼びかけ、ライオンズクラブ員で衣料品店を営むMさんから、未使用だが古くなってしまう在庫の子供用運動着を大量に寄附をしていただく。又、姉妹提携を予定している通明小学校の生徒から、算数セットもいただく。訪問する人数が5人だったため運べる量には限りがあったがそれでも自分の荷物是最小限にとどめ、荷物の8割は贈る物を大きなトラックに詰め込んで出発した。

午前中は、窓枠及びドア枠にペンキ塗りをして、午後は子供達との交流を行う。ほほほほあがっていたバスケットコートでサッカーを子供達と行い、盛り上がる。この間双方の言葉は日本語とラオス語のみで通訳もなかったが体の動きと表情だけで心は通じ合うことが明らかになったひとときであった。

一方1台もついていたピアノを会員が演奏してみせるとその周りを幾重にも子供達を取り囲む。子供達に使ってこらんと差し出すと、少々尻込みしていたが、やがて子供達が吹くピアノの音は終始校庭のどこかで鳴り続けていた。しばらくして、我々がここを離れるころには、その音は短いフレーズながら一定のメロディとなっていた。

前回ここを訪れたときの子供達は、その多くが少し離れたところから我々を眺めている、少しおびえた印象であったが、今回はだいぶ雰囲気も明るく、好奇心に満ちた希望を蓄えた普通の子供の感じを受けた。授業が始まれば水が砂にしみ込むように何でも吸収してくれそうである。

◆隣人愛、親子愛、友情、先生を敬う心
*勉強したいというひたむきな態度、向学心
*日本ではもう忘れられてしまった自然に対する畏敬の念
*貧しさに萎縮はしない逞しさ

計4ヶ所を見学し、NGOと共に村人の意見を聞く。どの村も熱心に現状と学校の必要性を真剣に訴えた。中でも村民の協力体制に意気込みが強く感じられたトンコー村に我々の学校建設を決定した。2008年1月、当クラブより5名が校舎も完成に近づいたトンコー村に2度目の訪問を行った。今回は事前に会員に呼びかけ、ライオンズクラブ員で衣料品店を営むMさんから、未使用だが古くなってしまう在庫の子供用運動着を大量に寄附をしていただく。又、姉妹提携を予定している通明小学校の生徒から、算数セットもいただく。訪問する人数が5人だったため運べる量には限りがあったがそれでも自分の荷物是最小限にとどめ、荷物の8割は贈る物を大きなトラックに詰め込んで出発した。

午前中は、窓枠及びドア枠にペンキ塗りをして、午後は子供達との交流を行う。ほほほほあがっていたバスケットコートでサッカーを子供達と行い、盛り上がる。この間双方の言葉は日本語とラオス語のみで通訳もなかったが体の動きと表情だけで心は通じ合うことが明らかになったひとときであった。

一方1台もついていたピアノを会員が演奏してみせるとその周りを幾重にも子供達を取り囲む。子供達に使ってこらんと差し出すと、少々尻込みしていたが、やがて子供達が吹くピアノの音は終始校庭のどこかで鳴り続けていた。しばらくして、我々がここを離れるころには、その音は短いフレーズながら一定のメロディとなっていた。

前回ここを訪れたときの子供達は、その多くが少し離れたところから我々を眺めている、少しおびえた印象であったが、今回はだいぶ雰囲気も明るく、好奇心に満ちた希望を蓄えた普通の子供の感じを受けた。授業が始まれば水が砂にしみ込むように何でも吸収してくれそうである。

◆ラオス トンコー小学校建設
長野県井ライオンズクラブ会長 大日方尚様
40周年記念事業を、長野県みずライオンズクラブ、アジア教育友好協会と連携して、ラオス人民民主共和国南部山村のトンコー村に小学校開校を行うこととした。

2007年9月、当クラブより4名が現地調査にラオスを訪問。車で約2時間、最後は4WDでやっと走行できる悪路を走り、同村に到着する。

NPO法人AEFAと現地のNGOと計画の打合せを行う。はじめて訪れたラオスの人たちの印象は、*何とも言えない微妙な「はにかみ」
*感謝の心が素直に伝わってくる態度の柔らかさ
*真直ぐに相手の目を見て挨拶する態度
*村人同士の温かな思いやり

◆ベトナム フートウ小学校開校式
(株)アルファビート様支援校
開校式が2月18日に開催され、AEFA谷川理事長他スタッフも参加し、アルファビート様からのお祝いのメッセージを代読(左記)。児童代表のミーウィちゃんがお礼の言葉を述べ、鼓笛隊の子ども達の演奏が式に華を添えました。

*アルファビート様のメッセージ
「夢を持っている人は、周りの人に夢を語り、努力を続けてください。努力を続けていけば、たくさんの人々が、夢の実現を助けてくれます。今は夢を持っていない、という人は、これから持つようにしてください。夢は、人間が成長するためのエネルギーになります。フートウ小学校が、たくましく人の夢に栄養を与える場所になることを願ってやみません。また、私たちは、この学校で夢が育つお手伝いをできることを光榮に思っています。」

●東京都教育庁推薦校の交流●

かぼちゃプロジェクト始動

東京都・武蔵村山第八小&ラオス・パチュドン小



武蔵村山第八小では「絵手紙」に取り組んでいます。でんでん太鼓など日本の昔のおもちゃや冬野菜を描いた作品を、AEFAスタッフと現地NGOスタッフ・パチュドンの先生が、日本語-英語-ラオス語-現地の言葉であるタイ語へ訳し、子どもたちに紹介しました。絵手紙を見ながら、「マークウー（かぼちゃ〜）!」「マークウア（なす）!」と喜んでいました。ラオスと日本、遠く離れているけれど、同じ「かぼちゃ」を育ててみよう!小野江校長先生のアイデアで、かぼちゃプロジェクトが始まります。

子ども親善大使の交流

東京都・平井第二小&ベトナム・クルーン小



“ベトナムのお友だちと仲良くなりたい!”と、各学年から16名の「子ども親善大使」が集まりました。校長先生手作りの「親善大使活動ノート」をもとに、ベトナムへ送る壁新聞や作品を作りました。2/4には作品贈呈式が行なわれ、子どもたちはクルーン小のお友だちからのお返事を、今から首を長くして待っています。

ラオスの学校をきれいにしたい

東京都・千寿第八小&ラオス・ドンニヤイ小



台風でつぶれた藁葺きの教室や、壁も床も無く吹きさらしの教室など、ラオスの学校の様子を知った子どもたちが、募金活動を行ないました。「私達はドンニヤイ校のみなさんにえんぴつ、消しゴム、ノートを贈るため募金活動を行ないました。ドンニヤイ校のみなさんを心配して時には1000円札を入れてくれたり、ピンにパンパンにつめこんで持ってきてくれた人たちもいました。どうぞ使ってください。私達もドンニヤイ校のみなさんのお役に立ちなればいいなと思っています。」(児童からの便り)

山の学校との交流

東京都・向台小&ベトナム・ニャックレオ小

地域に根ざした伝統ある向台小では、国際理解教育に力を入れ、AEFA交流もその一環として行なわれています。ニャックレオ小の“ニャック”は、少数民族セダン族の言葉で“山”という意味です。その名の通り、山と森に囲まれた村です。



向台小の児童達からの学校紹介交流作品、校長先生からのメッセージを持参し、現地の先生方に手渡しました。石澤校長先生は、現地の先生方にもすっかりお馴染みになっていて、親しまれています。日本の学校生活も興味深そうに見られていました。

各校の個性あふれる作品を、アジアのフレンドシップ校のお友だちに届けました。

壁新聞



横浜市千寿小→ベトナム・ブオンジャンラン小/右上
岩手県星山小→ベトナム・フーカンB小/右下
福井県河和田小→ベトナム・フートウ小/左上
品川区立会小→ベトナム・タムホア第2小/左下

作品の交流



岩手県上平沢小→ベトナム・ヴァンフォン小/右上
福井県村岡小→ベトナム・トゥオンロックB小/右下
福井県王子保小→ベトナム・チューオレン小/左上
中国・日中藤誼小→沖縄県中里小/左下

ご寄付

横浜雙葉高等学校2年生AEFA班のみなさんから、文化祭でタイ少数民族雑貨を販売した売上をタイ・ソップワック小にご寄付いただきました。

*

足立区千寿第八小学校のみなさんは、ラオス・ドンニヤイ小の台風でつぶれた校舎や床も壁もない校舎を見て募金活動を行い、「役立てて欲しい」とご寄付いただきました。



台風でつぶれた茅葺きのドンニヤイ小旧校舎

アイセック学生による授業

神奈川県・藤野南小&ベトナム・タインタン小



世界最大の学生団体であるアイセックの一橋大学委員会の学生が、AEFAと協同して国際理解教育プロジェクトを行ないました。夏休みにタインタン小を訪問、家庭訪問もして子どもとご両親にインタビューしてきました。新校舎が出来て、子ども達はその日学んだことを、毎日家で話しているとのこと。日本との交流も楽しく、手紙や写真で日本のお友だちの顔が見えるのが嬉しいそうです。

藤野南小でも交流授業を実施、子ども達にベトナムの学校やお友だちの様子を紹介しました。藤野南小の6年生13名は、5年生の時から遠田先生と一緒に交流しているベトナム通。タインタンのお友だちの住んでいる家や授業の様子に、興味津々でした。

たまちゃん&しまちゃん

岡山県・玉島南小&ラオス・ノンデュン小



玉島南小の子ども達は、昨年4月から12月まで毎週水曜日に空き缶を集めました。代表委員会の呼びかけで、ポスターを掲示し、地域の人も協力してくれました。

冬になって寒い中、空き缶をつぶす作業は手がかじかんで、本当に大変だったようです。

1月23日に行なわれた贈呈式では、谷川理事長から「このお金で、ラオスのお友だちに教科書と牛のつがいを買いたいけど、みんな、いいかな? 牛の名前は、たまちゃんとしまちゃんにしよう」と提案がありました。みんな、「賛成!」と手をあげてくれました。

実は、谷川理事長がノンデュンを訪問して村人と話し合ったとき、「牛が欲しい」と話が出たそうです。村は貧しくて、牛を買うこともできません。つがいの牛を飼えば、産まれた子牛を売って収入になります。そのお金で文房具を買ったり、学校を運営する資金にしたいということでした。

あたたかな贈り物

福井県・平章小、長畝小、村岡小



ラオスやタイの山岳地域では、冬になると冷え込み、着たりきりきりの子供たちが寒い思いをしている...との話を聞き、福井の平章小、長畝小、村岡小が、近くの小中学校にも声をかけ、たくさん衣類を集めてくれました。

<平章小学校>「少子化なので子供服の集まりも悪いだろうと思い、近隣の小中学校へも声を掛けるところ、びっくりするくらい集まりました。」(三浦校長先生談)

<長畝小学校>「軽トラック2台分も集まり、教室が洋服で一杯です。子どもたちと先生で仕分していますが、量が多いので、冬休みも使って作業を続けました。」(青木校長先生談)

<村岡小学校>「単なる衣類でなく、トレーナーの方が学校とのつながり感や子供どうしの親近感が湧くと思いました。」(新門校長先生談)

これらの衣類は、地元運送会社の協力を得てAEFA事務所に送られ、スタッフが現地出張毎にカバンに詰めて運び、子ども達にとっても喜ばれています。

フレンドシップの鐘

東京都・杜松小&ラオス・クアンシー小



杜松小の子ども達校庭で集めた「銀杏」の売上金でクアンシー小に、鐘(直径25センチ、高さ23センチの真鍮製釣鐘)が贈られました。ラオスの学校には、時間を告げる手段がなく、先生が木の板や鉄屑を叩き、「時間ですよ」と大声で知らせていました...

「カラン、カラン」という鐘の音は、「教育の夜明けを告げる鐘の音」であり、「友情の鐘の音」であり、「村人たちの心を繋ぐ鐘の音」となり、村中に響いていくのではないのでしょうか。

鐘だけでなく、JAいせはらの皆さんのご協力で子ども達が栽培した『としょう米』も贈られました。

日本のむかしのおもちゃ

奈良県・済美小&ベトナム・アンルオン小



2年生のお友だち手作りのけん玉・こま・羽子板・ヨーヨーのおもちゃが、フレンドシップ校のベトナム・アンルオン小だけでなく、ベトナム中部高原やラオスの小学校にも届けられました。

ベトナムと日本の国旗が描かれていたり、「みんなで仲良く遊んでね」とメッセージがついているものもあり、ベトナムの子どもは大喜び。初めて挑戦するけん玉に悪戦苦闘していましたが、あっという間に上達し、AEFAスタッフよりも上手になりました。

日本との交流の部屋

神奈川県・保土ヶ谷中&ベトナム・ティン・トゥオン小



ティン・トゥオン小のリエン校長先生は、日本との交流にとっても熱心です。交流用の部屋に、「保土ヶ谷中学校との交流の部屋」とプレートが掲げられ、壁新聞やフレンドシップ協定書が掲示、保土中の木村校長先生にも直接お手紙を出されるなど、リエン先生の熱心な思いと、友情の気持ちが伝わりました。

神田校長先生がゆく

岡山県・鶴山小&ベトナム・ホンティエン小



神田校長先生がフレンドシップ校を訪問、ホームステイをして交流してきました。

「村をあげての歓迎に、心が熱くなりました。夜には歓迎パーティーがあり、皆で一緒に踊りました。村の裕福な家がステイ先に用意されておったのですが、それでは村の生活は分からん...!と、私は一部屋だけのおうちに突撃訪問して泊めてもらいました。言葉なんかは全然分かりませんが、気持ちは伝わり、楽しかったです。

地元・津山の学校に呼びかけてピアノを集めて持参し、弾き方を指導。子ども達は熱心に挑戦し、なんとか30分程度で弾けるようになりました。お会いした先生方は、皆さん教育に燃えていました。教育が隔々まで行きわたりつつある様子が分かりました。」

●パートナーNGO
ラックス・タイ・ファウンデーション

財団ラックス・タイ・ファウンデーション(RAKS THAI FOUNDATION(RTF))は、世界最大規模の国際NGOケア・インターナショナルのタイ事務所として開設され、1997年、タイ政府の認可を受け独立しました。理事長にアジアのノーベル賞とも言われている「マグサイサイ賞」を受賞した元外務大臣のドクターカセー・チャナウオン氏が就任し、農村部の貧困問題、環境問題、エイズに対する取り組みを行っています。

日本の学校とお互いの環境学習について交換する「環境」をテーマにした交流や、村に高校生(フレンドシップ校静岡英和女学院高校)がホームステイをし、カレン族の生活を体験するスタディツアーを通しての交流などをサポートしてきました。今年度は、チェンマイから車で約5時間の山岳地域にあるオムコイ地区で、ファイコン小学校の建設を進めています。「アジアの子供たちに学校をつくる議員の会」様の支援。

学校建設と交流活動で AEF Aと提携
AEF Aはこれまで、ラックス・タイ・ファウンデーションの協力をえて、チェンマイ県の山岳地域(主にカレン族の村)で05年2校、06年2校を建設しました。

オムコイ地区は、年間の収入が約三万円しかない、タイでも最も貧しい村の一つですが、近隣の十カ所の村の子供を受け入れる地域中心校です。その役割を担っていくため、小学校の新校舎の建設の他に、教室の修繕やトイレなどの整備を進めています。



RTFの活動
上：エイズ施設での支援
中：子ども達の環境学習を支援
下：山の尾根にあるファイコン小学校

「議員の会」、支援校建設地を視察

タイ国ファイコン小学校の建設支援をいただいた「議員の会」代表の遠藤利明議員の子女遠藤友香理さん、遠藤寛明さんが建設地を視察されてきた感想を寄稿いただきました。

●遠藤友香理さん…“元気をもらおう”

学校建設地の視察は、私にとって初めての経験でした。

実際にファイコン小学校に行ってみて、写真を見たり人から聞いたりしただけではわからなかっただろうな、と思わされる事が多くありました。

穴の開いたままの寮のベッド、10人で1冊ほどしかない教科書、それから机や椅子、遊具や農具など足りないものだらけ、という現状を目の当たりにし、私たち日本の学生がどれだけ恵まれているかを改めて感じました。

ファイコン小学校の子供たちは、そんな環境の中でも懸命に勉強し、また先生方も24時間体制で子供たちを見守ってくださっています。その姿を見て元気をもらおうと同時に、この子供たちのためにできる限りのことをしてあげたい、という気持ちが一層強まりました。

今後とも、この学校のよりよい教育のためにお手伝いをしていきたいと思っています。また、彼らと日本の学生たちとの交流によって、双方がより広い視野を持って成長してくれたらいいな、と非常に楽しみにしています。

●遠藤寛明さん…“目の輝きに感銘”

今回の視察では、日本がどれだけ恵まれているか、また教育環境がいかに整っているかということ



上：先生、子ども達と
中：日本の将棋を持参し
手ほどき
下：食事の支援。
左から寛明さん、友香理さん

を再認識したものでした。

タイのチェンマイからファイコン小学校までは車で約5時間。舗装されていないデコボコ道を通りながら着いた学校は、321人の生徒が勉強するには狭い校舎でした。

教室、食堂、トイレ…どれをとっても日本では考えられないもの。しかし、そこにいる生徒は「勉強したい」という一心で、学習できるのが当たり前日本人とは目の輝きが違うものでした。

また先生も熱心。自分のプライベートはほとんどなく、朝から晩まで一日中子供と関わっていました。学校のある先生が、「子供が増えれば、学校の子算は少ないため学校施設などの問題で大変になる。でも、まだ読み書きもできない子供がたくさんいる。大変になってもより多くの子供に教えたい」と言っていたのを聞いた時、こういう先生が日本にもたくさんいたら、日本はもっと変わるのではないかと感じました。

今回学校に行くことができ大変勉強になり、今後自分に出来ることはないかと考える視察でした。

「アジアの子供たちに学校をつくる議員の会」には、衆参両院66議員が参加。1998年の結成以来、カンボジア6校、ラオス1校、ミャンマー1校の合計8校を建設。今回が9校目になります。

◆佐川AEF A専務理事の設計校舎

文科省公立学校優良施設に選定

佐川専務理事の設計監理による星山小学校(岩手県紫波町立)が、「平成20年度文部科学省うるおいのある教育施設賞」に選ばれました。同校はAEF Aが05年に支援建設したベトナム・フーカンB小学校のフレンドシップ交流校でもあります。



星山小学校外観



玄関昇降口の柱



佐川専務提案で残された旧校舎のレンガ壁で作られた「絆の壁」。
ベトナム・トゥオンロックB小。

◆遠藤事務局長が横浜市教委評議員に

「コミュニティ・スクール」校長の経験に期待

建物のコンセプトを「木の温かさ」として設計。町産木材のスギ(柱・外壁)、カラマツ(梁)、アカマツ(床)、ツガ(土台)が主要部材としてふんだんに使われています。

AEF Aの支援建設校において

横浜市教育委員会の委嘱を受け、遠藤事務局長が横浜市立二俣川小学校の評議員を平成20年4月から務めることになりました。瀬野尾校長先生のブレインとして、学校経営、特に「コミュニティ・スクール」に関するアドバイスをを行うこととなります。

遠藤事務局長は、AEF A参画前、大手鉄鋼会社から三重県教育委員会の公募校長として、津市立南が丘小学校に就任。文部省「コ

も、学校を地域の人々の思いをつなぐ場所に」との考えから、建築アドバイスをしています。その一つとしてベトナム・トゥオンロックB小学校では旧校舎の美しいレンガ壁の一部を「絆の壁」(写真左上)として残り、それが今では村のモニュメントとなり、子ども達の楽しい遊び場ともなっています。

瀬野尾校長先生は、「AEF Aのフレンドシップ校としてお付き合いしているうちに遠藤さんの経験だけでなく教育に対する熱意と人柄にもうたれた。地域と一体化した学校運営にご協力いただきました」と期待を寄せられています。

特定非営利活動法人としての第1期定時総会が平成20年3月28日開催され、事業報告書、財産目録、貸借対照表等が決議承認されました。引き続き4月16日、臨時総会が開催され、谷川理事長以下役員6名が再任されました。

◆都教育庁より5校推薦

東京都教育庁より07年度に4校のフレンドシップ交流校を推薦いただき、各校とも熱心に活動されました(P9ご参照)。

08年度はさらに5校(左記)の推薦をいただきました。ありがとうございます。各校の活発な交流が期待されます。

- 港区赤羽小学校
- 荒川区第五峯田小学校
- 国立市国立第七小学校
- 奥多摩町氷川小学校
- 奥多摩町古里小学校

◆第1期定時総会開催

特定非営利活動法人としての第1期定時総会が平成20年3月28日開催され、事業報告書、財産目録、貸借対照表等が決議承認されました。引き続き4月16日、臨時総会が開催され、谷川理事長以下役員6名が再任されました。

◆谷川理事長、招聘講演
アジアで学校を創る

新しい付加価値を持つNGO活動を目指して

谷川理事長が3月27日、「毎日メトロポリタンアカデミー」に講師として招かれました。

同アカデミーは、中曽根元首相はじめ“時のひと”を毎月招き1988年から続く定評あるセミナーで、今回の招聘は、AEF A創設以来の活動が評価されたものといえます。(講演骨子下記)

毎日メトロポリタンアカデミー



<私のボランティア人生>

- 第1章：設立の経緯
- 第2章：AEF A理念の形成過程
- 第3章：基本姿勢は「現場主義」
- 第4章：今後の夢

以上の骨子で、1時間10分にわたり講演。3年間の活動から、AEF A事業の「本当の受益者は日本の子ども達である」ことを確信したこと、そして、学校を建設することとどまらず、住民参加による運営、日本との国際交流の「3階建理念」の重要性を語り、今後のAEF A事業「10の夢」実現への決意で結び盛大な拍手をうけました。

なお、講演内容はAEF Aブログでご覧いただけます。

主な掲載記事

掲載メディア	記事見出し	日付
品川区WEB	杜松小ラオススクアンシー小とフレンドシップ交流	2007.4.25
朝日新聞	品川・杜松小 校庭のギンナン 交流の種	2007.4.26
岩手日報	星山小 木造校舎で国際交流	2007.4.28
山陽新聞	玉島南小児童 ラオスの交流授業	2007.7.12
福井新聞	勝山二小で「特別授業」	2007.7.13
毎日新聞(夕)	遠藤事務局長 民間校長の転身	2007.9.5
信濃毎日新聞	信田小出前授業〜ベトナムを紹介 長野で出張授業	2007.9.6
読売新聞	品川・杜松小 校庭の銀杏売る>金色の鐘鳴る	2008.1.13
東京新聞	おそろいの鐘使って ラオスへの贈り物「友情深めたい」 杜松小	2008.1.16
山陽新聞	ラオスの友に届け 玉島南小児童 缶の収益寄付	2008.1.24
朝日新聞	校庭のギンナンの収益金で製造 「友情の鐘」を贈る 杜松小	2008.1.26
福井新聞	友達はアジアの少数民族 県内小広がる交流 「心の豊かさ学んで」	2008.3.3
福井新聞	日本の子、福井の子に「生きる力」を アジアで学校建設 交流後押し	2008.3.17



ラオスの小学校って? 玉島南小児童 生活や文化学ぶ
ラオスの学校の様子を紹介するアジア教育友好協会のメンバー

AEF A活動のマスコミ紹介
設立3年目の07年度は前年より倍増の24件が紹介され、スタッフへの何よりの励みとなりました。

トピックス

●遠藤事務局長、「母校」にかえる ベトナムの友だちつてすごいんだあ

津市立南が丘小学校児童の眼を通して



後列右から中山校長、遠藤事務局長。前列は遠藤「校長」の教え子

今日(2月15日)、5限目に体育館で全校児童集会がありました。クラスで整列して体育館に入ると、去年まで校長先生をされていた遠藤先生が立っていました。私は、「あ、遠藤先生や。」とびっくりしました。担任の先生に、「今日は何かあるの?」と聞くと、「ベトナムの学校の話をしに来てくれたんだよ。」と教えてくれました。私は、わくわくして遠藤先生の話を待ちました。

はじめに、大きなスクリーンに、古い学校の写真がうつし出されました。「ボロボロやあ。」と、誰かの声が聞こえます。

「これは皆さんと交流をはじめたベトナムのタイン・ジャンという小学校の古い校舎です。」と、遠藤先生が教えてくれました。とても古くて、屋根にはところどころ穴があいているそうです。とても

私は、びっくりしました。私たちは、当たり前のように、毎日学校で勉強したり遊んだりして楽しんでいたりするのに、ベトナムの子どもたちは、家で働いているんだと知って、ベトナムの子どもたちですごいなあと思っていました。

遠藤先生は、「でも、みんな明るい顔をしているでしょう? 新しい教室ができて、とても嬉しいんで

古くなったので、いろいろな人が協力して、となりに新しい校舎をつくることになったそうです。遠藤先生が、「これが出来上がった新しい学校の写真です。」と見せてくれた学校は、とてもきれいで、ぴかぴかでした。

「わあ、ええなあ。」と、うしろで誰かが言っていました。

遠藤先生は、ベトナムのお話をしてくれました。学校に行けない友だちがたくさんいるそうです。学校が遠くて通えなかったり、貧しくて行けなかったりするそうです。私は、「どうして貧しいと学校に行けないのかな?」と思いましたが、すると、遠藤先生は、こんなことを教えてくれました。

「子どもでも、家の仕事を手伝ったり、弟や妹の面倒をみたりしているんですよ。水くみは、子どもの大事な仕事です。水は貴重品なので、川がオフロの代わりなんです。」



全校生対象の出前授業。元気な子ども達。

すよ。」と教えてくれました。自分たちの学校がきれいになって、みんなで勉強したり遊んだりすることができると思うととてもうれしんだなと思いました。

遠藤先生は、「ベトナムの子どもたちに、皆さんのことや、南が丘小学校のことなどを伝えていってください。」と言われました。

タイン・ジャンのお話のあとは、ベトナムのクイズでした。ベトナムの景色はどれかとか、「アオザイ」って何かとかとても難しかったけど、当たったときは、みんな「イエーイ」と喜んでいました。あつという間に時間がたってしまいました。遠藤先生に久しぶりに会えたし、ベトナムのことをいろいろ知ることができてとても楽しかったです。遠藤先生またきてくださいなね。ありがとうございました。

ボランティアのみなさん

いつもご協力いただき、ありがとうございます!!

吉田さくら：翻訳、翻訳チーム推進
 沖野 紫穂：翻訳
 坂本 美幸：翻訳
 横瀬 定且：映像編集、模型作成等
 長田 雅史：PC関係
 豊崎 光三：HP関係
 小田川篤子：書類・資料作成
 高野 暁子：書類・資料作成

友の会新会員のご紹介

新しく入会されたみなさんです。ありがとうございました。(敬称略)

<個人会員>27名
 青山 壽康/赤澤 幹温/飯田 顕正
 石井 康一/伊東 直人/大日方 尚
 加藤 紘二/岸 良範/久保田 政純
 坂本 裕子/鈴木 都志子/高橋 均
 高原 貴志/田中 彌/田辺 正明
 田村 雄二/坪井 守/中込 輝男

中島 洋/南海 綾子/根岸 正彦
 堀川 洋/本田 靖/牧野 卓夫
 松本 忠雄/森尾 榮一/米津 剛士

<法人会員>4社
 有限会社 アクアライフ
 株式会社ライフサポーター 山市
 創栄共同事務所
 社会福祉法人まつど育成会

友の会にご参加を

アジア教育友好協会では、アジアの子ども達に対する教育支援や、日本の子ども達との国際交流を支援して下さる会員の方を募集しています。

会員(寄付) 1口以上
 ・個人 3,000円(年間)
 ・法人 30,000円(年間)
 【お問い合わせはこちらへ】
 TEL:03-6426-0720

私たちは各国のパートナーNGOと手を携えて活動しています。

- 《パートナーNGO》
- ラオス：Village Focus International / Laos
- ベトナム：Health and Education Volunteers Saigon Children's Charity
- タイ：Raks Thai Foundation / Care Thailand
- 中国：日本・雲南聯誼協会

特定非営利活動法人 アジア教育友好協会 AEFA (アエファ)
 Asian Education and Friendship Association
 本 部：〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F
 TEL 03(6426)0720/FAX 03(6426)0721
 Email: tokyo@nippon-aeffa.org URL: http://www.nippon-aeffa.org ブログ: http://blog.canpan.info/aeffa/

